



Corporate Profile



D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE



デ・ウエスタン・セラピテクス研究所

D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE

質の高い創薬活動を支える

2つの力。

当社は連結子会社である日本革新創薬株式会社(JIT:ジット)とそれぞれの強みを活かしながら協業することで、DWTIグループとして基礎研究から臨床開発まで幅広い事業領域における創薬活動を実現しています。

D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE



代表取締役社長
日高 有一

ごあいさつ

DWTI (デューティー)は、日本発の画期的な新薬を世界に届けることを目的として設立されたバイオベンチャーです。

当社は、バイオベンチャーとして2つの誇りがあります。1つは、上市品(国の承認を受けて販売している製品)を保有していること、もう1つは自らの手で次の薬の種を創製できることです。

新薬開発の成功確率は3万分の1と言われており、日本において上市品を保有するバイオベンチャーは未だ少なく稀有な存在です。

また、新薬開発をしているバイオベンチャーは国内にも数多くありますが、薬の種を継続的に創製できる優れた基盤技術すなわち創薬エンジンを保有するバイオベンチャーの数も少ないのが実状です。

そのような中、当社は優れた創薬の実績と、次世代の新薬の種を作る技術を有しております。それが我々の誇りです。

バイオベンチャーの成長を支えているのは、質の高い優れた新薬候補品です。

当社は、独自の創薬エンジンを使い、今後も質の高い新薬候補品を創製するだけでなく、外部から優れた新薬候補の種を導入し、成長のための新薬候補品を充実させていきます。

治療満足度の高い新薬を提供するという社会的使命を果たすとともに、透明性・信頼性の高い経営に努め、社会から必要とされる企業であり続けられるよう更なる成長を目指してまいります。

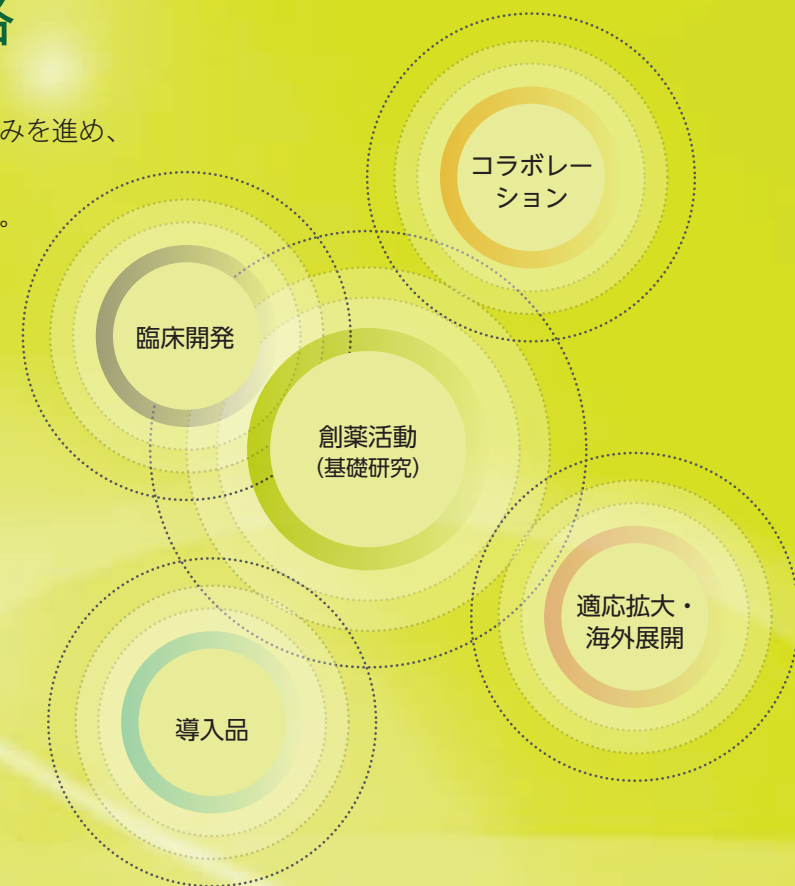
皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



強みである創薬活動から広がる可能性

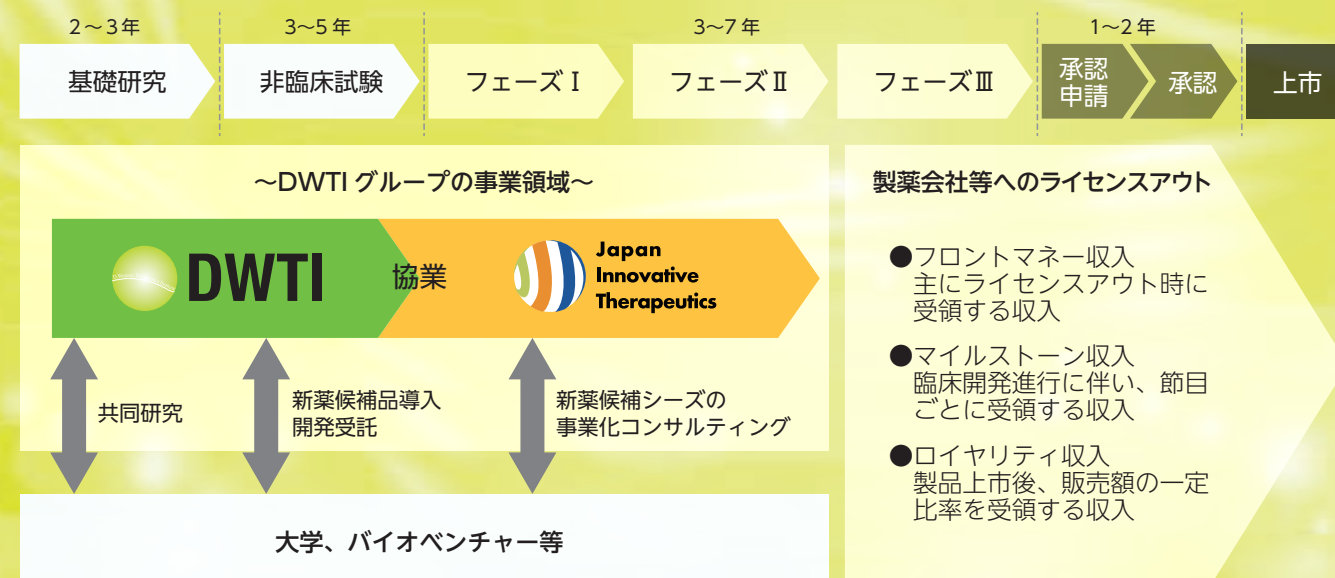
成長戦略

創薬活動を柱に多方面に向けた取組みを進め、企業価値を相乗的に向上させていきます。



【ビジネスモデル】

強みである創薬力を一層発揮できるよう、早期臨床開発までを事業領域へ



質の高い創薬活動を支える

D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE



代表取締役社長
日高 有一

ごあいさつ

DWTI (デューティー)は、日本発の画期的な新薬を世界に届けることを目的として設立されたバイオベンチャーです。

当社は、バイオベンチャーとして2つの誇りがあります。1つは、上市品(国の承認を受けて販売している製品)を保有していること、もう1つは自らの手で次の薬の種を創製できることです。

新薬開発の成功確率は3万分の1と言われており、日本において上市品を保有するバイオベンチャーは未だ少なく稀有な存在です。

また、新薬開発をしているバイオベンチャーは国内にも数多くありますが、薬の種を継続的に創製できる優れた基盤技術すなわち創薬エンジンを保有するバイオベンチャーの数も少ないのが実状です。

そのような中、当社は優れた創薬の実績と、次世代の新薬の種を作る技術を有しております。それが我々の誇りです。

バイオベンチャーの成長を支えているのは、質の高い優れた新薬候補品です。

当社は、独自の創薬エンジンを使い、今後も質の高い新薬候補品を創製するだけでなく、外部から優れた新薬候補の種を導入し、成長のための新薬候補品を充実させていきます。

治療満足度の高い新薬を提供するという社会的使命を果たすとともに、透明性・信頼性の高い経営に努め、社会から必要とされる企業であり続けられるよう更なる成長を目指してまいります。

皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2つの誇り。

上市品を保有する数少ないバイオベンチャーであること、次世代の新薬の種を作る基盤技術を有していることが当社の誇りであり、差別化を図る強みとなっております、それが質の高い創薬活動につながっています。



■ 優れた創薬の実績

日本国内では、上市品を保有する会社はまだ少ない中、当社は2014年12月に自社創製品(緑内障治療剤グラナテック®)の販売が開始されました。成功確率3万分の1を製薬会社と協働で達成しました。

開発品	対象疾患	領域	基礎研究	非臨床試験	フェーズ I	フェーズ II	フェーズ III	申請	承認	上市	起源	ライセンスアウト先
1	グラナテック® 点眼液 0.4%	緑内障・ 高眼圧症	日本								当社	興和
2	リバスジル 塩酸塩 水和物	緑内障・ 高眼圧症	韓国、 シンガポール、 アジア 3ヶ国								当社	興和
3											当社	興和
4	K-321	フックス角膜内皮 変性症	米国								当社	興和
5	リバスジル塩酸 塩水和物/プリモ ニジン酒石酸塩	緑内障・ 高眼圧症	日本								当社	興和
6	H-1337	緑内障・高眼圧症	米国								当社	自社開発
7	K-134	—	日本								当社	興和
8	DW-1002	内境界膜剥離	欧州								九州 大学	DORC わかもと製薬
米国												
カナダ												
9	DW-1002	内境界膜染色	日本								九州 大学	DORC わかもと製薬
日本												
10	DW-1002	内境界膜剥離	米国								九州 大学	DORC わかもと製薬
11			カナダ									
12	DW-1002	内境界膜染色	日本								九州 大学	DORC わかもと製薬
13			日本									
13	DW-1001	眼科用治療剤 (非開示)	日本								英国企業	ロート製薬
14	未熟児網膜症治療薬	未熟児網膜症	日本								東京農工大学	JIT開発
15	シグナル伝達阻害剤 開発プロジェクト	眼科関連疾患、神経、 循環器、呼吸器系疾患									当社	

Pride

■ 次世代薬を生み出す基盤技術

当社の基盤技術は、3つの創薬エンジンから成っており、これらによって継続的な新薬候補化合物の創製が可能となっています。

>>化合物ライブラリー

プロテインキナーゼ阻害剤を中心とした新薬候補シーズの基となる化合物群。新薬が生まれる源泉であり、ダイヤの原石の宝庫とも言えます。

>>ドラッグ・デザインカ

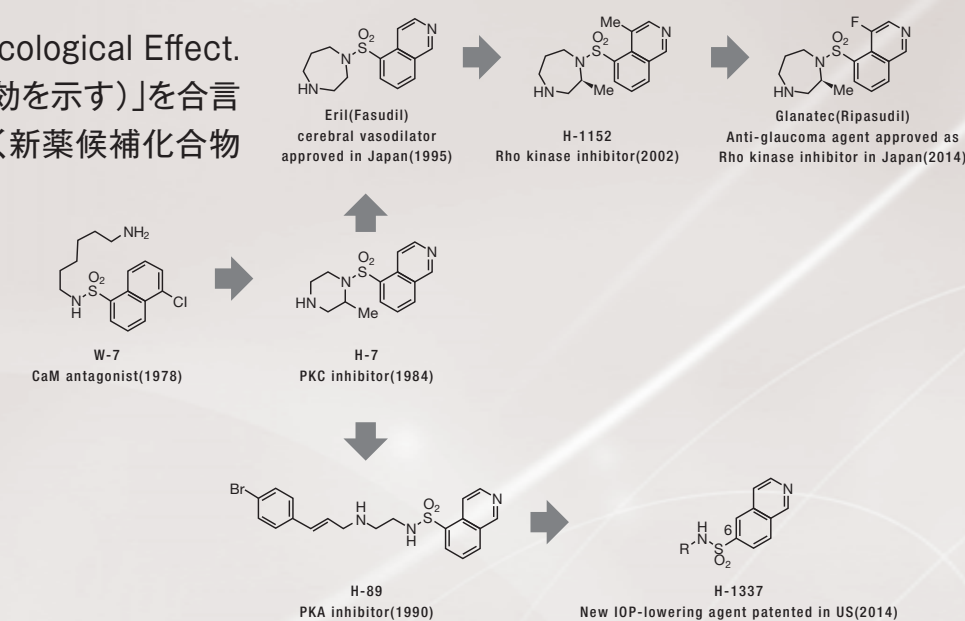
取得した様々なデータを基に新薬候補化合物を設計する技術。化合物ライブラリーに多数あるダイヤの原石(シード化合物)を磨き上げる力がドラッグ・デザインカです。我々の創薬の実績が、このドラッグ・デザインカの高さを証明しています。

>>ドラッグ・ウエスタン法

当社の社名の由来にもなっている、新薬候補化合物の作用メカニズムを調べる独自技術(特許第3970370号)。

[研究開発]

「Small Change, Big Pharmacological Effect. (小さな変化によって大きな薬効を示す)」を合言葉に、過去の知見から効率よく新薬候補化合物を創製します。



2 Pride

■ プロテインキナーゼ阻害剤を中心とした新薬開発

当社のシード化合物は、当社が過去に蓄積してきたプロテインキナーゼ阻害剤が中心となっております。プロテインキナーゼとは、細胞の分化、増殖等の細胞内情報伝達機能を担っている生体内の重要な酵素です。当社は、プロテインキナーゼの機能をコントロールする阻害剤開発を進めることで、有効な新薬候補化合物を創製しています。

■ 研究開発体制

当社の研究開発は、国立大学法人三重大学に当社が設置した産学官連携講座「臨床創薬研究学講座」において行われております。開発研究所は、三重県津市の同大学医学部に設置されており、大学の知識・設備を利用することで効果的な研究開発が可能となっております。



【企業理念】

我々は人類の健康を守るために

1. 画期的な創薬にチャレンジします。
2. 時間と労力をかけることを惜しみません。
3. 独自のバイオテクノロジーを集結します。
4. そして、新薬を生み出す先導企業を目指します。

【会社概要】

会社名	株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
設立	1999年2月
所在地	〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目18番11号
資本金	34百万円(2020年3月末現在)
従業員数	14名(2020年3月末現在)
事業内容	医薬品の創薬研究開発
グループ会社	連結子会社1社 日本革新創薬株式会社 (医薬品の研究開発及びコンサルティング)
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQグロース(証券コード:4576)

【行動指針】

D : Development of originality

当社は独自性のある技術・思考・ノウハウを追求し、価値のあるオンリーワン企業を目指します。

W : World standard

グローバルな創薬ベンチャー企業となるべく、高い遵法精神、倫理観を持ち、技術力・開発力のみならず財務体質・組織体制においても世界水準を目指します。

T : Trustworthy company

当社を支えてくれるステークホルダー、株主様、患者様、取引先様への感謝の気持ちと応える気持ちを忘れずに、大切に信頼関係を築きます。

I : Immediate action

開発はスピードが重要。常に優先順位を考え、効率的な行動を心掛け、直ちに取り組む姿勢を持ち続けます。

【役員一覧】

取締役会長 兼 最高科学責任者	日高 弘義
代表取締役社長	日高 有一
取締役総務管理部長	川上 哲也
取締役(社外)	山川 善之
取締役(社外)	中村 栄作
常勤監査役(社外)	青木 哲史
監査役(社外)	岸澤 修
監査役(社外)	会田 隆雄

【会社沿革】

医薬品研究開発を目的とした、
有限会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所設立

興和株式会社とK-134の開発及び実施契約、
K-115の開発及び実施契約を締結

1999

2002

2004

有限会社より株式会社へ組織変更

2006

国立大学法人三重大学と産学官連携講座共同研究契約を締結し、
同大学内に「臨床創薬研究学講座」を開設

2009

ジャスダック証券取引所NEO
(現 東京証券取引所 JASDAQグロース)に株式上場

グラナテック®点眼液0.4%
(開発コード:K-115)の国内上市

2014

K-115(製品名:グラナテック®点眼液0.4%、一般名:リパシジル塩酸塩水和物)
の国内製造販売承認取得(適応症:緑内障・高眼圧症)

2015

日本革新創薬株式会社を
連結子会社化

眼科用治療剤の日本における独占の実施権を取得する導入契約を締結
(開発コード:DW-1001)

2017

BBG250を含有する眼科手術補助剤にかかる事業の譲受(開発コード:DW-1002)

2018

当社初の自社で行う臨床試験H-1337の米国フェーズI/フェーズIIa試験実施

米国Glaukos Corporationと緑内障治療製品における共同研究契約並びにライセンス契約を締結

2019

ロート製薬株式会社とDW-1001の日本における独占の実施権を許諾するライセンス契約を締結